第５６回

新千歳空港の２４時間運用に関する
苫小牧市地域協議会会議録

日　時：令和６年８月２２日（木）１８時３０分開会
場　所：植　苗　フ　ァ　ミ　リ　ー　セ　ン　タ　ー

第５６回新千歳空港の２４時間運用に関する苫小牧市地域協議会

・日　時　令和６年８月２２日（木）１８：３０～１９：４０

・場　所　植苗ファミリーセンター

・議　題

（１）新千歳空港における最近の動向について

（２）令和５年度航空機騒音測定結果等について

（３）住宅防音対策の進捗状況等について

（４）地域振興対策の進捗状況等について

（５）新千歳空港周辺地域振興基金について

（６）その他

◎地域委員　出席者（１５名）

◎北海道（６名）

◎苫小牧市（７名）

◎公益財団法人　新千歳空港周辺環境整備財団（４名）

◎北海道エアポート株式会社（５名）

１．開　　会

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　皆様、こんばんは。

本日は、お忙しい中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまから第５６回新千歳空港の２４時間運用に関する苫小牧市地域協議会を開催いたします。

２．あいさつ

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　それでは、協議会の開会に当たりまして、北海道の交通企画監からご挨拶を申し上げます。

●北海道（交通企画監）　こんばんは。

本日は、天候の悪い中、そして、お忙しい中、皆様に本協議会にお集まりいただきまして、心からお礼を申し上げたいと思います。

また、普段から新千歳空港の２４時間の運用、さらには、道行政の推進に関しましてもご理解とご協力を賜っておりますことに関しましても、重ねてお礼を申し上げたいと思います。

新千歳空港の利用状況につきましては、昨年度、２，０００万人の大台を突破し、そして、物流の面でも４月からフレイター、いわゆる航空貨物が運航するなど非常に明るい話題が多くなってきているところでございます。加えまして、今、燃油の問題、航空燃料の問題で新聞等でも報道がございますが、まだ本格的に海外の需要が戻っていない、取り込めていないという課題もございますけれども、国際チャーター便が今後ますます増えていくことも勘案しますと、非常に、新千歳空港の未来にとっては今後明るい材料が出てくるのかなというふうに感じてございます。我々、北海道内の経済の活性化に向けましては、この新千歳空港の活性化が非常に重要である、このように考えてございます。

道としても、今後の新規就航、それから、空港の発展、地域の発展に向けまして、今後もいろいろ皆様とご相談しながら着実に進めてまいりたいと考えています。

それから、２４時間運用の推進に当たりましては、本当に皆様のご理解とご協力が非常に大事だというふうに我々は思ってございます。防音対策、地域振興対策などの対策につきましては、本日ご参画いただいています苫小牧市さん、財団、ＨＡＰさんの方ともしっかりと連携しながら対応してまいりたいと考えてございますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

簡単ではございますが、私のご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　ありがとうございました。

続きまして、苫小牧市副市長からご挨拶を申し上げます。

●苫小牧市（副市長）　皆様、こんばんは。

本日は、大変お忙しい中、そして、夜分にも関わらずご出席を賜りまして、誠にありが

とうございます。

そして、地域協議会委員の皆様におかれましては、新千歳空港の２４時間運用に関しまして、常日頃よりご理解とご協力をいただいておりますことに、この場をお借りして改めてお礼を申し上げたいと思います。

さて、新千歳空港につきましては、ただ今、交通企画監からのお話もございましたが、国内線の旅客数や貨物便数の増加など大変明るい話題がある一方で、回復途上の国際線、そして、航空機燃料の問題など、まだまだ課題は多くありますので、これらの課題が解決され、さらにプラスになるように、私どもとしては、大きく期待をしているところであります。

また、皆さんとお約束しております住宅防音対策につきましては、北海道や財団と連携を図りながら事業を進めているところでございますが、今後も皆様からのご意見をしっかり賜りながら着実に実施をしてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

結びになりますが、改めまして、委員の皆様には、地域協議会の開催に対しますお礼と協議会へのご協力を心からお願い申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

◎委員紹介及び事務連絡

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　ありがとうございました。

この後は、着座にて進めさせていただきます。

次に、植苗地区２名の欠員に伴いまして、新たに推薦されました方々をご紹介させていただきます。

Ａ委員でございます。

同じく、Ｂ委員でございます。

３．議　　事

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　次に、３の議題に入ります。

（１）「新千歳空港における最近の動向について」を議題といたします。

北海道及び北海道エアポート株式会社から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）　本日は、よろしくお願いいたします。以後、大変恐縮でございますが、着座にて説明をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

新千歳空港における最近の動向及び近況につきまして、資料１－１及び資料１－２によりご説明をさせていただきます。

資料１－１、「新千歳空港における最近の動向について」をご覧いただきたいと思います。資料のページ数では１ページ目となります。

まず最初に、「１　深夜・早朝時間帯における定期便の状況について」でございますが、資料では、令和６年８月までの運航実績について整理してございます。

今年度につきましては、今月よりヤマト運輸の深夜貨物便３便が運航を開始したことなどにより、表のとおり、昨年度の最大６便より４便多い、１日最大１０便を見込んでおります。

次に、資料下段の「２　深夜・早朝時間帯における国際臨時・チャーター便の状況」でございますが、新型コロナウイルス感染症拡大による影響により、令和２年度から４年度までは深夜・早朝時間帯の運航実績はございませんでしたが、昨年度におきましては、韓国が旅客便の３便､オーストラリアが貨物便の１便の合計４便の運航実績がございました。

道としましては、航空路線の需要を高め、これまで以上に深夜・早朝時間帯の発着枠が有効に活用されるよう、今後も引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

新千歳空港における最近の動向に関する道からの説明は、以上のとおりです。

●北海道エアポート株式会社（地域共生担当次長）　常日頃の空港運営に対しましてご理解とご協力を賜りまして、厚くお礼を申し上げます。

それでは、「新千歳空港の近況」につきまして、着座にてご説明させていただきます。

お手元の資料、資料１－２の２ページになります。

上段の「２０２４年新千歳空港発着便数」についてです。

新千歳空港の国内線の便数は、幹線を中心にコロナ以前の水準にほぼ回復いたしております。特に、雪まつりなどのビッグイベントが通常開催となりまして、北海道への観光需要の回復に伴いまして、航空会社は各路線の便数をコロナ前水準にほぼ戻したと言える状態でございます。

また、国際線は韓国、台湾等を中心に便数が回復しまして、前年の約１．５倍で推移しておりますが、コロナ前対比では、中国本土路線が北京、上海、深圳の３路線の就航にとどまっておりまして、回復率はご覧のとおり、５割から７割程度で推移しております。

下段に移ります。

「２０２４年新千歳空港旅客輸送実績」でございます。

コロナの５類移行後、新千歳空港の国内線はビジネス層におきまして、会議等のウェブによる遠隔化が定着したことにより出張等の需要が低下いたしまして、それをコロナ禍で抑制されておりました帰省等の生活需要と観光需要が補塡し、コロナ前対比９６％前後で推移いたしました。

２０２４年４月、今年の４月からは生活需要、観光需要が一巡した感がございまして、ビジネス需要減をカバーできず、コロナ前対比９２％程度と、年度スタートとしては若干厳しい状況ではございました。ここ最近の６月、７月では、若干それを回復した傾向にございます。

そして、国際線につきましては、韓国路線が好調を維持しておりますが、空港地上支援業務の人手不足に加えまして、先ほどもお話がございました航空燃料の供給確保の新たな

問題等によりまして、新規就航やチャーター便就航に支障を来すケースが顕在化しております。

政府は６月、官民の協議を開始いたしまして、先月、７月に燃油の供給安定に向けた行動計画を示したところでございます。

新千歳空港の近況につきまして、北海道エアポートからは以上でございます。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問はございますでしょうか。

Ｃ委員、お願いします。

●Ｃ委員　ニュースで聞いたんですけれども、航空燃料を輸入するために船を３隻建造しなければならないというニュースを聞いたのですけれども、そこまで逼迫しているのですか。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　航空燃料関係のご回答を、北海道エアポートさん、よろしいでしょうか。

●北海道エアポート株式会社(地域共生担当次長)　北海道エアポートからお答えします。

資料にもお示ししましたとおり、政府は６月に官民協力のタスクフォースを組成しまして、先月、行動方針をお示ししましたけれども、この航空燃料の供給問題につきましては様々な問題点がございまして、例えば、製油所の整理統合ですとか、製油所から各空港に配分する船の内航船の数とか、内航船に勤務する船員の勤務環境改善に伴うそういった船の就航の路線の削減とか、港に着きましたタンカーからそれぞれ空港に運び込むタンクローリーの数とか、そのタンクローリーに乗車するドライバーさんの数とか、また勤務環境とか様々な要因がございまして、それらを一つずつ改善していくような仕組みの官民協業体の組織を組成して、一つずつ解決していくといったような今後の流れになっていくものというふうに考えております。

●北海道エアポート株式会社（地域共生部長）　付け加えます。

そういうことなんですが、もうちょっと分かりやすくお話しすると、今、ＣＯ２の環境問題が世界的に話題になっておりますが、やはり石油を使うとＣＯ２が非常に出ます。そういうことで、世界的に灯油とか製油の使用をやめようという方向感にありまして、その中で国内の製油所も半減しました。航空燃料は原油使用量の７％ぐらいとごく微量ですけれども、そういったような世界的な情勢も受けて、今、産業構造はちょっと変換しているのですけれども、それは、国土交通省さん、経済産業省さんも重大に受け止めて、今後の供給体制をいろいろ検討していこうということで、今、うちから説明したように、会議体がつくられて、今、鋭意取り組んでいるところでございます。

これから冬に北海道は旅行需要がまた高まってまいりますけれども、それに向けて、今、官民合わせてどういう方策がとれるかということを鋭意検討しておりますので、ご迷惑、ご心配をおかけしますが、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　よろしいでしょうか。

●Ｃ委員　はい。
●苫小牧市（まちづくり推進室長）　ほかにご発言はございませんでしょうか。
Ｄ委員、どうぞ。
●Ｄ委員　すみません、同じ質問になるんですけれども、燃料調達のほうで、たしか以前の報道で週１４便というふうに伺ってましたけれども、ここにも少し触れていますけれども、グランドハンドリングのスタッフが欠員というんですかね、それで５０人超える便数が就航できてないというふうにもちょっと聞いているのですけれども、この辺が燃料調達と切り分けができているのか、燃料調達はできたけれども、グランドスタッフがいないのでできませんというふうにならないのか、その辺はどうなっているのか、また、人材確保というところは、今、どういうふうな動向になっているのか、お聞きをしたいと思います。
●北海道エアポート株式会社（地域共生部長）　ご質問ありがとうございました。
やはり給油問題と同じようにグランドハンドリング問題も密接に関わってございます。
ご案内のとおり、今、情報通信分野は人材もかなり揃っているのですが、やはり電気や土木、建築とか、また我々のようなグランドスタッフの業界というのは、かなり人の確保に苦慮しております。特にコロナ禍があって、これはホテル業界も一緒なのですが、そういう方々がやはり先行きを見て流出したんですね。今、やっとコロナが落ち着いて、徐々にそういうグランドスタッフも今戻りつつあります。そういう中で、これは由々しき問題なので、国の方も、北海道や空港所在地の自治体の皆さんと一緒に課題解決に取り組んでおります。短期的な対策として、いろいろ空港を中心にリクルート、就職説明会を開催したり、中・長期的対策としては、学校等にアプローチを行い空港における業務説明等を行っております。
給油問題と併せて、今、我々の優先順位としては一番高い問題として取り組んでいるところでございます。
また、皆様におかれてもグランドスタッフ関係でご希望の人材がいらっしゃったら、ご紹介いただければと思っています。よろしくお願いします。
●苫小牧市（まちづくり推進室長）　ほかにご発言はございませんでしょうか。
よろしいでしょうか。
（「なし」と発言する者あり）
●苫小牧市（まちづくり推進室長）　ないようでございますので、次に、（２）「令和５年度航空機騒音測定結果等について」を議題といたします。
北海道の方から説明をお願いいたします。
●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）　令和５年度の民航機の騒音測定結果などについて、資料２－１から資料２－３によりご説明いたします。
初めに、３ページ目の資料２－１、「令和５年度航空機騒音測定結果について」をご覧ください。
苫小牧市内における航空機騒音の測定局は、北海道が設置しました植苗局、ウトナイ局

など９局と、苫小牧市が設置いたしました琥珀荘局などの６局、合計１５局がございまして、これらの測定局で騒音値を測定しているところです。

表の右側には､年間Ｌｄｅｎ値と民航Ｌｄｅｎ値の２種類の数値を記載してございます。

年間Ｌｄｅｎ値とは、千歳飛行場を離着陸する自衛隊機を含む全ての航空機の騒音を集計した結果でございます。

また、民航Ｌｄｅｎ値とは、自衛隊機の離着陸のなかった日を民航機のみの航空機騒音を測定した日とみなして集計した結果でございまして、本日はこの民航Ｌｄｅｎ値についてご報告を申し上げます。

資料の太枠で囲った部分が令和４年度と令和５年度の民航Ｌｄｅｎ値の測定結果となります。

自衛隊機の飛行日を除いた後の集計対象日数が異なることや、気象状況等によって算出値が変化する場合がありますことから単純には比較できませんが、令和５年度におきましては、運航便数の増加などにより、前年度を上回る数値を継続した測定局も一部あるものの、いずれも増減幅は１デシベルとなっておりまして、ほぼ前年度と同程度であったと考えられます。

なお、全ての測定局で対策の目安となる環境基準を下回っている結果となったことを申し添えます。

続きまして、４ページの資料２－２、「令和５年度遅延便の深夜・早朝時間帯使用状況について」をご覧ください。

この資料での遅延便とは、地域の皆様に合意をいただいております深夜・早朝３０枠以外の便が、何らかの理由で出発ないし到着が予定より遅れたことにより、結果として、深夜・早朝時間帯を使用することとなった便のことを指します。

まず、１、「航空会社別便数について」でございますが、令和５年度の遅延便の合計は７１７便となりました。航空会社別では、ＡＩＲＤＯが２２６便と一番多く、次にＡＮＡが２１７便となっておりまして、それぞれ全体の３２％、３０％を占める状況となっています。

次に、「２　遅延理由別便数について」でございますが、令和５年度における遅延便は令和４年度と同様に天候による遅れが３１８便と最も多く、全体の４４％を占める結果となりました。

また、その他につきましては、機材繰りや出発準備作業の遅れなどの理由で３３２便の遅延便が発生しておりまして、そのうち、機材の不具合や玉突きなどの機材繰りによるものが２２０便となっております。

天候による遅延につきましては、月ごとの遅延便数を表の下にグラフとして記載しております。

紫色で表示されております右側の令和５年度のデータをご覧いただくと、８月と１月、２月に多くなっていることが分かると思います。８月は、雷雨や台風による悪天候や、夏

休み時の空港施設の混雑の影響、１月は、羽田空港の事故の影響による遅延に加えまして、新千歳空港の大雪に伴う遅延が多かったことによるものとなっているところでございます。

続きまして、「３　時間帯別便数について」でございますが、例年、２２時から２２時１９分、表の一番左側になりますが、この２０分以内の遅延が一番多くなっておりまして、令和５年度も３２２便と、全体の約４５％を占めております。

また、２２時台の遅延でございますが、左から三つを足したものになりますが、合計で５９３便ありまして、全体の約８３％を占めている状況でございます。

最後に、資料の５ページになりますが、資料２－３、「千歳市側と苫小牧市側の着陸の状況について」をご覧ください。

この資料は、千歳側にある旭ヶ丘局と苫小牧市側にある植苗局、それぞれの測定局の計測値から着陸方法を判断し、７時から２１時５９分までの日中と、２２時から翌朝６時５９分までの深夜・早朝の時間帯に分けてカウントしたものとなっております。

新千歳空港を離陸する航空機につきましては、離陸後に東京方面をはじめ、目的地に向かって南下するものが多くなっております。千歳側から離陸する場合、離陸後、南向きに旋回して苫小牧側に向かうことになります。

こうしたことから、苫小牧側の測定局でも、千歳側からの離陸の騒音を計測してしまうケースがございまして、計測値からは正確な離陸数を把握することが大変難しいということで、資料では、これまでと同様に着陸数のみ示しております。

まず、上の表をご覧いただきたいと思いますが、令和５年度の着陸数について、全体では千歳側が４万２，２９１回、苫小牧側が１万８，７６７回でございまして、比率としましては、千歳側が約６９％、苫小牧側が約３１％となっております。

時間帯で見た場合、７時から２１時５９分までは千歳側が４万１，１３５回、苫小牧側が１万８，３１８回、また、２２時から翌朝６時５９分までで見ますと、千歳側が１，１５６回、苫小牧側が４４９回と、いずれも着陸の比率は、千歳側が約７０％、苫小牧側が約３０％となっております。

なお、離陸につきましては、先ほどもご説明しましたが、計測値からは正確に判断することができないということでございますが、着陸数から推測すると、離陸は、苫小牧側が約４万２，０００回、千歳側が１万９，０００回と考えられるところです。

なお、この計測値でございますが、あくまでも航空機の音でカウントしておりますので、実数値とは乖離が発生することをご承知おきいただきたいと思います。

説明は以上です。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　ありがとうございます。

ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問はございますでしょうか。

Ｅ委員、どうぞ。

●Ｅ委員　４ページの航空会社別の遅延数なんですけれども、ＡＮＡとＡＩＲＤＯで約６０％ぐらいですよね。これの内訳の理由、こういうデータはあるのでしょうか。

それともう一つ、遅延理由の中で項目が挙がっているのが４項目で、その他ということで、約半数近くが大くくりされているのですけれども、このデータの内容はどうなのかなというのが、すごく興味があるところですけれども、その辺のデータをこれからもう少し細分化して表現していただければなというふうに感じています。今後のための参考までに聞いていただければいいと思いますけれども、よろしくお願いいたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）　ご意見を承りましたので、今後の集計の際の参考にさせていただきたいと思います。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　ほかにご発言はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　それでは、ないようでございますので、次に、（３）「住宅防音対策の進捗状況等について」を議題といたします。

北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）　それでは、資料の６ページになります。

資料３の「住宅防音対策の進捗状況等について」をご説明いたします。

まず、「１　令和５年度の実績等について」でございますが、苫小牧市分は表の真ん中、太枠で囲われた部分になります。

表の中の部分は数字でございますが、高齢者優先枠を含めた数値となっております。

まず、意向調査で回答があったのが、一般住宅で２８６件、２９４世帯、集合住宅で７件、８３世帯、合計で２９３件、３７７世帯となっております。

工事実績についてでございますが、令和４年度までの間に、一般住宅で１２６件、１２７世帯、集合住宅で２件、３２世帯、合計で１２８件、１５９世帯の工事が行われてきたところでございます。

また、令和５年度でございますが、一般住宅で１３件、１３世帯、集合住宅で１件、２世帯、合計で１４件、１５世帯のうち、令和４年度からの繰越分につきましては、一般住宅のみ２件、２世帯の工事が行われてきたところでございます。

昨年度までの合計の数値は表に記載してございませんが、Ｒ４までの実績とＲ５の実績を足すと、一般住宅で１３９件、１４０世帯、集合住宅は３件、３４世帯、合計で１４２件、１７４世帯の工事が行われておりまして、実施率につきましては、数値が入っていますが、件数で４８．５％、世帯数で４６．２％となっております。

また、令和６年度の工事の計画についてでございますが、苫小牧市につきましては、一般住宅のみ１６件、１７世帯の工事が行われる予定となっております。現在、６件、６世帯が着工となっている状況と聞いております。

このことから、今年度末までに一般住宅で１５５件、１５７世帯、集合住宅で３件、３４世帯、合計では１５８件、１９１世帯となる見込みとなっておりまして、実施率は、件数で５３．９％、世帯数で５０．７％の見込みとなっております。

次に、千歳市とも合わせました令和５年度の工事実績と今年度末までの工事見込みについてご説明をしたいと思います。

表の下段の合計というところをご覧ください。

表の工事実績のＲ５の欄の一番下段に記載していますとおり、令和５年度には、苫小牧市と千歳市を合わせまして１１９件、２０３世帯の工事を実施したところでございます。

また、表の右下に記載をしてありますとおり、令和６年度末までには１，１０２件、１，６２５世帯の工事が完了する予定としておりまして、実施率は、件数で５０．２％、世帯数で５２．５％となると見込んでおります。

次に、「２　高齢者優先枠の令和５年度までの実績等について」でございますが、令和５年度に一般住宅のみ３件、３世帯の工事を実施した結果、苫小牧市分は終了となってございます。

次の７ページをご覧いただきたいと思います。

「令和６年度の現地調査について」でございます。

苫小牧市におけます令和７年度実施予定の工事に係る現地調査でございますが、令和５年度までに１件実施済みでございます。今年度は、４月の１次調査で一般住宅３件、７月の第２次調査で一般住宅を５件実施しております。また、９月、来月からの第３次調査では、現在、一般住宅６件の調査が確定しておりまして、現時点では、合計１５件の調査実施が決まっているところでございます。

最後になりますが、資料中程の参考の部分でございます。

まず、住宅防音工事の流れにつきまして改めてご説明いたします。

新千歳空港周辺環境整備財団では、皆様から提出いただきました意向調査票の記載に基づき、評価基準により工事の順位付けを行いまして、工事予定時期の前年度に対象者に候補住宅通知書を送付することになっておりまして、その後、順次、現地調査を実施するということになっています。現地調査の終了後、年度内に皆様が設計事業者と契約しまして、設計を行っていただいた後、その翌年度から工事を実施するという流れになっております。

なお、工事予定時期など、詳しくは財団までお問合せいただきますよう、よろしくお願いいたします。

また、資料の下段には財団の組織図を掲載しておりますが、組織体制など、昨年度からの変更は特段ございませんので、細かい説明は省略させていただきます。

住宅防音対策の進捗状況等に係る説明は以上のとおりです。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問はございますでしょうか。

Ｆ委員、お願いします。

●Ｆ委員　住宅防音では、我々の町内の総会でも随分質問が出る案件です。

何かあったら、先ほども財団に質問ということがあるんですが、質問する大半の人が、次、意向調査の番号を言って、いつ頃ですかといったら分からないという回答を圧倒的に

言ってくるようです。それは分からないのかもしれないのだけれども、そういう対応でなく前向きにしていただきたいのと、令和６年は、千歳が１２２件に対して苫小牧が１６件という割合はどういうふうに決められているか分からないけれども、あまりにも少ないのかなという感じがします。全体で半分ちょっとですから、だんだん、高齢者枠が８５歳以上といいますから、植苗で言うと、もう高齢者の人はやっと歩く状況の人が多いのかなと思います。だから、もう少しスピード感を持って、防音工事を待ち望んでいる人もいますし、これだけ遅延便が倍以上、先ほど僕は質問をしなかったけれども、遅延の１０分、２０分は大したことないんですよ。中には２時間遅れとか１時間遅れとか、そういう遅延便を認めていることがいかがなものかと思う。

その他の内容は、全部、我々はデータをもらっていますから、点検の不備だとか機材のやりくりという名前で処理されているけれども、あまりにも多過ぎると思います。

遅延便のときは、質問しませんけれども、倍以上の遅延が出ていて、夜に来られて、防音工事もしないところで１１時、１２時近くに来られたら、やはり住民に影響しているのは間違いないと思いますよ。

だから、もう少しスピード感を持って、この地区は冬でも防音工事を受けるという方が結構いるんですよ。そういう面でご配慮いただければと思っています。

また、財団さんには、僕、個人的には、人が足りないなら増やしてでもやってもらいたいなと思っているんです。何でもやれやれと言っても、手の回らないことまでやれなんて言ったって無理な話ですから、今は２名の財団、道職員かもしれませんけれども、異論があるかもしれないけれども､増やしてでもスムーズにやっていただきたいという要望です。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　ただいまの防音工事の関係で、質問をしても分からない、明確に答えてほしいということと、工事が少ないのではないか、あとはスピード感を持ってほしいというようなお話でございますけれども、北海道さんからご回答をよろしいですか。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）　ご質問をありがとうございました。

まず､苫小牧の数といいますか､千歳との割合というようなお話もございまして､まず､その点について回答をさせていただきたいと思います。

まず、防音工事につきましては、地域の皆様との約束事でありますので、確実に、できるだけ早期に実施していくことが重要という考えの下、苫小牧市と財団としっかり連携して、計画的に多くの工事に着手できるように今後も取り組んでいきたいというふうに思います。

防音工事につきましては、住民の意向調査を行った上で、騒音の影響の大きさだとか高齢者、乳幼児がいるかどうかなどの評価基準に基づいて、優先順位を設定しているところでございます。あと、Ｃ区域とＢ区域の差もあると思います。

こういったことを考慮しまして、基本的に市の単位での差別化を設けることなく行うところでございますが、同一基準の下、進捗が極端に偏ることのないよう進めておりますの

で、その点はご理解いただきたいというふうに思います。

もう１点、「遅延便について」でございます。

遅延便につきましては、毎年度開催しておりますこの地域協議会で、委員の皆様から強くご指摘を受けている中で､昨年よりも２倍近い遅延便が発生してしまったということは、大変申し訳なく感じているところでございます。

毎年度、防衛省と東京航空局、ＨＡＰさん、そして道との４者で空港に関する打合せ会を開催して、様々な課題について意見交換をしているところでございまして、その都度、道からは、遅延便の状況を報告して、遅延便を極力出さないよう協力を要請しているところです。

今年も、５月に開催された会議におきまして、昨年度の遅延状況の７１７便ということを説明した上で、改めて各機関に協力要請を行いました。

今後も引き続き、地域の声を強く伝えてまいりたいと考えておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

●（公財）新千歳空港周辺整備財団（事務局長）　財団からも、一言、ご説明させてください。よろしくお願いします。

協議会の場で機会あるごときちんと対応してほしいというご要望、ご指摘をいただいております。

財団では、平成２８年度に意向調査を提出していただいてから年数がたっておりますことから、工事の優先順位については丁寧に説明するよう心がけております。

具体的には、工事の優先順位の決め方や優先順位の高い人から工事していきますよという説明をした上で、お客様の現在の状況を確認し、現在の申込みの状況、今何件の申込みがあります、前年度までに何件が終わっています、そして、今、お客様は何番目です、工事の年間の実施見込みが大体１５件で、割り返すと３年から４年の間ですというような大まかな実施時期の目安を具体的にご説明しております。

また、意向調査が出ていない方からの提出や、工事の中身を変えたりすることもあって順位が変動することもございますので、変更もありますということも付け加えてご説明しております。財団といたしましては、引き続き、工事の実施時期につきましては、具体的かつ丁寧に説明を心がけていきます。

工事の順番のみならず、工事の内容だとか、こういう工事は受けられるのかというような不明な点が少しでもございましたら、お気軽に財団のほうにお問い合わせいただきますようお願いいたします。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　よろしいでしょうか。

Ｆ委員、どうぞ。

●Ｆ委員　頼もしい話を伺ったので、そのようにしていただきたいんですが、植苗もいろんな、航路下と航路下ではないエリアがありますから、それは財団のほうでどういうふうに整理されているか分かりませんけれども、防音工事に対しましては、早期にやってあげ

てほしいなと思っております。これだけ旅客が戻ってきまして、遅延便も多くなって、やはり生活するには非常に音の支障があると聞いておりますので、今後もよろしくお願いしたいと思います。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　そのほかに発言はございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　それでは次に、（４）「地域振興対策の進捗状況等について」を議題といたします。

北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）　それでは、資料８ページ目の資料４をご覧いただきたいと思います。

皆様方におかれましては、既にご承知の部分もあるかと思いますが、各地域の状況につきまして、改めて順に説明をさせていただきます。

まず最初に、植苗地区についてでございます。

まず、道営住宅の整備についてでございますが、植苗地区の星ヶ丘団地内に道営住宅を整備したものでございまして、第４期まで合計２９戸の整備が既に終了しております。

現在、退去された方だとか、当選者の中で辞退された方などがおりまして、３部屋が空室となっておりますが、指定管理者において、適宜、入居募集を行っていくこととしておりまして、今後は、９月に募集、抽せんとなる見込みとなっています。

次に、道の駅関連施設の整備でございますが、平成３１年３月にウトナイ湖の展望デッキが供用開始済みとなっております。

次に、冷暖房機器等の設置でございます。

冷暖房機器の設置につきましては、令和５年度までに７４件を実施しております。令和６年度は８件で実施見込みとなっております。

次に、住宅建設が可能となる区域拡大の検討についてでございますが、先ほど説明しました道営住宅が整備された星ヶ丘地区に係る地区計画が策定され、平成２８年１１月に告示済みとなっております。

続きまして、沼ノ端地区についてでございます。

複合施設の整備につきましては、平成３０年１０月に沼ノ端交流センターが供用開始となっております。

また、文化交流施設の整備につきましては、令和４年１２月に苫小牧市東開文化交流サロンが供用開始となっているところでございます。

最後になりますが、勇払地区について、総合福祉会館の整備といたしまして、平成２９年１２月に勇払総合福祉会館が供用開始となってございます。

地域振興対策の進捗状況等についての説明は、以上のとおりです。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問をお

受けいたします。

よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　それでは、ないようでございますので、次に進めさせていただきます。

（５）「新千歳空港周辺地域振興基金について」を議題といたします。

北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）　資料の９ページ、資料５をご覧ください。

まず、「１　基金の概要について」でございますが、造成目標額３０億円に対しまして、令和５年度末の造成済み額は１９億５，９７０万円でございます。

平成２７年の３０枠合意を契機といたしまして、道内で事業活動をされている企業を中心に基金造成への協力要請を行ってきた結果、現在までに１７社から総額１億１，７５０万円のご寄附をいただいたところです。

ご寄附いただきました主な企業は、表にあるとおりでございます。

昨年度までは、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりまして、企業等に対する個別の協力要請というのは中断しておりましたが、今年４月に、経済界にご協力をいただきまして、会員企業に対して基金の取組について周知していただいたところです。

また、それと並行して、我々としても、主に空港関連の企業などを訪問したところでございまして、寄附要請活動を再開したところでございます。

残念ながら、現時点では、まだ実際に寄附協力をいただくまでには至っておりませんが、今後も引き続き、企業などへの働きかけを継続的に進めてまいる考えです。

基金の造成目標額の未達成分に関しましては、基金運用益見合い分といたしまして、道から財団に１．５％金利見合いの約１，５００万円を補助しておりまして、基金運用益と合せて財団から町内会等に交付されております。

なお、令和６年度につきましても、昨年度と同額程度が確保されておりまして、既に配分されていることを申し添えます。

説明は以上です。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　なければ、最後に、（６）その他を議題といたします。

北海道から説明をお願いいたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）　資料の１０ページ、資料６をご覧ください。

ヤマト運輸貨物便についてご報告をいたします。

このことにつきましては、今年の２月の地域協議会におきまして、夜間運航があることについてはご報告済みでございますが、今回は、具体的な運航計画についてご説明を申し上げます。

４月から運航しておりますヤマト運輸の新千歳空港関係便はこれまで４便体制でございましたが、今月の８月１日より、資料に記載のとおり、６便体制となっております。

そのうち、太枠で囲んでおります三つ、成田２２時２０分発－新千歳０時５分着、羽田４時３０分発－新千歳空港６時１０分着、新千歳空港１時２０分発－羽田３時着、この３便が深夜・早朝時間帯を利用する便となっております。

報告は、以上のとおりです。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　ないようでございますので、本日の議題につきましては全て終了をいたしましたが、委員の皆様から、ほかに何かご意見、ご質問がございましたらお受けいたします。

Ｇ委員、どうぞ。

●Ｇ委員　それでは、私の方からは、地域協議会の会議の在り方といいますか、数年前、ちょっと何年だったか記憶が定かではありませんけれども、この地域協議会をその当時は年１回開催されていた状況だったんですけれども、２回やれというようなご意見があって、２回ということで現在に至っていると思います。

これまで、住宅防音対策に係る進捗状況という議題がメインの報告だったような気がするものですから、２回目については、この協議会の協議事項の項目の中に、２回目はやはり協議が必要だと判断されることが生じれば、当然、それはその都度やっていただきたいとは思うのですけれども、防音工事の進捗状況ということでかなり協議のテーマが絞られたのであれば、申し訳ないといいますか、かなり限定された協議の内容ということになれば、植苗さんのほうにはエアカーゴ対策委員会をお持ちだと思いますので、これ以降の若干の進捗状況の説明ということであれば、そういった場所で説明していただければ、あえて２回どうしてもやらないとならないという回数の問題ではないと思います。

できれば、その状況を見ながら、開催毎に１回やる、２回やるというような決めつけた話ではなくて、判断されて、より内容がある協議会にしていただきたいなというふうに思いまして、開催回数について、私は、もし２回目が非常に絞られた内容であれば、全地域の委員を集めて開催するまでもないのではないかというふうに思いますので、その点、発言をさせていただきたいと思います。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　ただいまのＧ委員からのご提案につきまして、まず、各地区のご意見を伺いたいと思いますけれども、初めに、植苗地区は植苗・美沢エアカー

ゴ対策委員会でも意見交換をしていただいていると聞いておりますので、その結果も踏まえて、世話人のH委員から、一言、お願いしたいと思います。

●H委員　ただいまG委員からお話があったように、植苗としても、報告事項については２回の協議会は必要ないのではないか。協議事項が発生すれば２回やりたい。そして、報告事項だけの場合は、植苗・美沢エアカーゴ対策委員会というのが植苗にはございますので、そのときに説明していただきたいなと。

だから、２回目は文書を配付ということじゃなくて、植苗としては、２月に植苗・美沢エアカーゴ対策委員会でご説明いただくという形を取っていただければそれでいいのかなと思っております。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　ありがとうございます。

次に、勇払地区世話人のＩ委員、いかがでしょうか。

●Ｉ委員　私も、G委員と同じ考えをずっと持っておりましたので、今後、原則１回ということでよろしいんじゃないか。今、原則は２回ですけれども、１回でよろしいんじゃないかというふうに思います。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　ありがとうございます。

そのほかの委員の皆様からご意見はございますでしょうか。

よろしいですか。

（「なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　それでは、植苗地区の植苗・美沢エアカーゴ対策委員会での結果と沼ノ端、勇払地区の賛成を踏まえまして、今後の協議会につきましては、特段の協議事項がない限り、年１回とすることでよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　ありがとうございます。

なお、住宅防音工事の進捗状況につきましては、来年２月の植苗・美沢エアカーゴ対策委員会にて報告と意見交換をすることといたしますので、よろしくお願いをしたいと思います。

そのほかにご発言はよろしいでしょうか。

Ｄ委員、どうぞ。

●Ｄ委員　ちょっと戻って申し訳ないんですけれども、周辺地域振興基金についてお伺いしたいのですけれども、これは、基金の運用果実を各地域にということは非常にありがたいのですけれども、この運用というのは、銀行の定期預金で運用されているという理解でよろしかったでしょうか。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　財団さんからでよろしいでしょうか。

●（公財）新千歳空港周辺整備財団（事務局長）　財団からご説明します。

預金に預けているものもございますが、多くは債権、国債や都道府県債など、安全性の高い証券で保有して運用させていただいております。

●Ｄ委員　ありがとうございます。

債券運用というのが、今、結構盛んに活用されているということで、もし定期預金の場合だけであればと思ってお聞きしました。ありがとうございました。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　そのほかにありますか。

Ｆ委員、どうぞ。

●Ｆ委員　分かっていて、しゃべられる範囲で結構でございます。

今、新千歳はコロナ前までの人数が戻ってきて便数も戻ってきたと、今報告があったわけですけれども、中国が５割から７割、それと、先ほど質問されていた報道の限りですけれども､燃料問題でチャーター便を断っているということですから､これを全部入れたら、今後、この空港はオーバーフローする状況じゃないのかなと。

ターミナルビルも、私は空港にちょこちょこ行くのですけれども、もう満杯だし、駐車場は土・日に行ったら午前中は待たなきゃ入れないです。

あと、ここら辺、民営化になって具体的に進んでいるのか、２次交通を含めて、このまま本当にやっていけるのか、今のターミナルビル、滑走路が２本で、どうなのかなと思って、それで、グランドハンドリングとか地上職員もいない。それで、どんどん受け入れて事故なんか、まだまだ、たまたま、あまり皆さん質問しませんでしたけれども、羽田の事故も新千歳・羽田便、地上内で翼を引っかけたのも千歳の中でした。羽田の場合は、海上保安庁機には本当に大変なことだったなと思うのですけれども、そういう問題もまだ今の段階では分からないと言われればそれまでですが、コロナ前には第３ターミナル構想まで示されていたけれども、コロナでなくなりました。

空港周辺の状況というのであれば、分かっている範囲で報告いただければと思います。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　ただいまのご質問に対して､北海道エアポートさん､よろしいでしょうか。

●北海道エアポート株式会社（地域共生部長）　質問をありがとうございます。

第３ターミナル構想については、前回もご質問いただきましたが、この計画はなくなったわけではございません。

我々は、昨日も新聞に載ってございましたけれども、会社ができて５年がたちました。ただ、当初の中期計画ではコロナというのが全く予想できなかったので、それに比べて、大分、計画が延期となっております。

そういうことも含めて、今、次期５年間に向けての中期計画の見直し作業を始めております。その中で、設立時と違った要因がいろいろ出てきましたので、その辺を精査しながら事業計画をフィックスしていくところでございます。

策定にあたっては、空港所在の自治体さんのほうにも伺って、いろいろディスカッションをして、お約束した設備投資計画とあまり齟齬がないように進めていく考えでございます。

企業というのは、中期計画を作って、そして、単年度計画を作ってローテーションして

動かしていくのですが、その際、需要予測が重要になります。これは、我々だけじゃなくて、一般の企業も同様であり、予測との乖離をどう見るかというのが会社経営にとって非常に大事なものでございますので、この辺は、グラハンの問題とか燃油問題も出てきましたけれども、非常に国際的な影響を受けるものでございます。我々はこれから真剣に、自治体の皆さんともディスカッションする中で、また計画を整備して取り組んでいきたいと思っております。

今の段階で第３ターミナルがいつできるということは言えませんけれども、そういう状況にあるということをご理解いただければと思います。よろしくお願いします。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　よろしいでしょうか。

Ｆ委員、どうぞ。

●Ｆ委員　ありがとうございます。

随時、やっぱり航路下で影響があるものもあると思いますので、我々地域もそういう理解の下に進んでいきたいと思っています。よろしくお願いします。

●北海道（交通企画監）　北海道から、ＨＡＰさんからもご説明がございましたように、人の問題ですね。人材の確保と、さらに育成、教育という部分もあって、一朝一夕になかなか解決できない問題ではございますが、人がいないと新たな誘致もままなりませんし、今後の発展につなげていくためには、地道ではありますけれども、今、ＨＡＰさんとやっている取組を今後も継続して粘り強くやっていきたいというふうに思っています。

それから、今日、Ｅ委員、Ｆ委員からございました遅延の話がございます。今日ご提示した資料を改めて見ますと、令和２年以降、やはり遅延便が継続して右肩上がりで増えていると。

そして、ご指摘があったように、その他の一番高い割合のところが一くくりにされていて、一体何が本当の課題なのかという部分がなかなか分かりづらいことになっています。

ここについては、我々も情報提供の在り方をしっかり考えることと、遅延の実際に関係者で情報を共有して、それがどういう対策がなされるのか、様々な機会を通じて国あるいは航空会社とこれから連携して進めていきたいというふうに思っております。

私も昨年、航空機に乗りましたけれども、間違いなく、ほぼほぼ遅延の便でした。やはり人員も少しずつ戻ってきて、グラハンの方は戻ってきてはいるのですけれども、やはり研修マークがついている方も多くて、安全対策の面も含めて、去年、国交省に知事から言われました羽田の事故があり緊急要望もやりましたけれども、安全が何より大事で、その上で地域の発展につながっていくと思っていますので、今日ご提言いただいたことをしっかり踏まえて対応してまいりたいと思いますので､引き続きよろしくお願い申し上げます。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　そのほかにご発言はよろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

４．閉　　会

●苫小牧市（まちづくり推進室長）　それでは、ないようでございますので、以上をもちまして、第５６回新千歳空港の２４時間運用に関する苫小牧市地域協議会を終了させていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

以　　上